

戸田康之さん『校長室のドア』（10月25日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日は、学校にある校長室のドアがめずらしいので、その話をしたいと思います。

私は、ろう学校に勤めています。10年ほど前に新しく校長が赴任してきました。この校長は手話のできない人でした。でもそれは普通のこと、歴代の校長は手話のできない人ばかりでした。10年前に来たその校長も手話ではできませんでした。ただ、この先生は、もともと英語の先生だったんです。なので、言語についての知識がある先生でした。手話にとっても関心を持ち、日本語とは違う言語なんだと、着任早々、手話を必死に勉強してくれたんです。

手話を特訓し、子どもたちとコミュニケーションしながら一生懸命覚えていた校長は、子どもたちからもいい先生だと大人気でした。今までの校長は、どうせ手話もできないから子どもたちから不人気でしたが、その校長は子どもたちとおしゃべりしたいと本当に手話に一生懸命で、その姿を見た子どもたちは先生が大好きでした。ですから、昼休みになると、小学部の子どもたちが校長室に次々と押しかけていくんです。校長先生とおしゃべりしたい！遊びたい！トランプしたい！UNO やりたい！とたくさん子どもたちが校長室に詰めかけました。それまでには全くなかった光景です。子どもたちは校長室に近寄ろうともしていなかったのが、その校長が来て初めて、校長室に子どもたちがやってくるようになったんです。校長もそのことをとても喜んでいました。

でも、1つネックがありました。それは校長室のドアがろう者に合っていなかったんです。聴者の場合は、部屋に入る前には必ずドアをロックするのがマナーですね。それで、中の人から「どうぞ」という声を聞いてから部屋に入ります。音の文化とでも言いましょうか。でも、ろう学校にいるのはろうの子どもたちです。ロックしても応答は聞こえません。校長も答えようとして伝わらないことに気づき、ドアまで行って開けますがそれも大変なので、どうしたらいいかと考えました。聴者はこのドアでもいいけれど、ろうの子どもたちには分からないのです。どうしたらよいものかと考えた校長は、ドアを交換することにしました。透明のガラス窓付きのドアにしたんです。ですから、部屋の外からも校長室の中の様子が見えます。子どもたちもロックする必要がありません。校長室の外から手を振って、中にいる校長がそれを見て「どうぞ」と手話で呼びかければ部屋に入れます。また、子どもたちが外から校長室の中を見れば、校長が電話中だったり来客中だったりする時も見て分かります。中を見て、今仕事してるから遊べないんだな、ということが子どもたち自身が見て判断できるようになります。ドアを換えたことでとても良い効果が生まれました。

また、私たちろうの教師としてもありがたかったです。校長室に入ろうという時に、ロックでは中の応答が分からないので、いつもドアを少し開けて中の様子を窺っていたのですが、窓がついてからは外から中の様子を見て、顔を見て入室の確認がとれるようになりました。ろう学校にぴったりのドアです。

そのドアは今もそのままになっています。これは埼玉のろう学校の話ですが、今後全国のろう学校の校長室がどんどんガラス窓付きのドアになるといいなと思います。